はじめての万葉集

日本に現存する最古の和歌集「万葉集」をわかりやすくご紹介します

vol.133

君により　言の繁きを　故郷の　明日香の川に　みそぎしに行く
八代女王（巻四・六二六番歌）

訳 あなたによって評判がうるさくたちました。故郷の明日香川に、それを清め流すために私は行きます。

明日香の川のみそぎ

この歌は、人の噂が激しいので故郷の明日香川に「みそぎ」をしに行く、と詠んだ歌です。

『万葉集』はまだ平仮名や片仮名がなかった時代の歌集であり、すべて漢字で書き記されていました。この歌では、ミソギを「潔身」と記しますが、一般的には「禊」と書き、身についた穢れを水の霊力で除去しようとして行う呪的な行為を指すと考えられています。『古事記』には、黄泉の国から戻ったイザナキが日向の橘の小門の阿波岐原で「禊祓」を行ったとあり、本来は別の言葉であった「禊」と「祓」とが、すでに混同されていたことが指摘されています。

古代には明日香川のどこかで「禊」が行われていたようです。

作者の八代女王は、『続日本紀』には「矢代女王」とあり、天平九（七三七）年二月に無位から正五位に叙されたこと、天平宝字二（七五八）年十二月に「先帝」に寵愛を受けながら、天皇亡きあとに心変わりして従四位下の位記を破棄されたこと、などが記されています。

同年八月に淳仁天皇が即位していることから、この時点の「先帝」とは女性である孝謙天皇になりますが、ここはさらに前の聖武天皇（在位七二四～七四九年）を指したと考えられます。

「潔身」が必要なほどの激しい噂にさらされたのも、後に位を剥奪されたのも、聖武天皇の寵愛を一身に受けていたことに対する周囲からの嫉妬によるものだったのではないか、ともいわれています。

この歌には「一尾云」と注が付され、「龍田超え　三津の浜辺に　潔身しにゆく」という歌もあったことが紹介されています。地名を入れ替えた似た表現の歌が伝わるのは、恋の常とう表現だったからだと考えられています。

（万葉文化館　井上さやか）

万葉文化館イベント情報

◆館蔵品展
「柿本人麻呂―万葉歌人から歌聖へ―」
5月10日(土)～6月29日(日)
柿本人麻呂が読んだ歌をモチーフに描かれた「万葉日本画」などの絵画を中心に、『万葉集』の写本や注釈書などを展示。人麻呂が後世に与えた影響をたどります。
※国内の小・中学生、高校生、18歳未満の方は無料。
※国内の65歳以上の方は平日無料、土曜・日曜は一般料金になります。その他割引など、詳しくは当館HPをご覧ください。

西田俊英《秋山迷ひぬる》

●ギャラリートーク 要観覧券
5月11日(日)14時～
5月21日(水)15時40分～
［講師］当館学芸員
［会場］日本画展示室

◆万葉集をよむ 無料
5月21日(水)14時～15時30分
「秋の雑歌(2)」
（巻8・1518～1529番歌）
［講師］中本和（当館主任研究員）
［定員］150人（先着・申込不要）
※オンライン視聴（定員なし）は要申込

◆にぎわいフェスタ万葉 春
開催中～6月8日(日)
詳しくは当館HPをご覧ください。

奈良県立万葉文化館
☎0744-54-1850
www.manyo.jp